



TOPPAN × 袋井市 = 「未来の教室」実証事業 ～Edtech(IT 等を駆使した先端教育法)の普及に向けて～

○趣 旨

経済産業省が実施する「学びと社会の連携促進事業（『未来の教室』（学びの場）創出事業）」を活用し、教育サービス事業者（凸版印刷㈱）と連携し、新たな I C T 教育（=未来の学び方）の実証事業を実施する。

○実証事業の概要

(1) ねらい

子供たち一人一人の資質・能力に適した学習を進めるため、タブレットを使った新しいスタイルの授業（=未来の学び方）を実践し、その効果を検証する。

(2) 実施体制

実証事業受託者：凸版印刷株式会社

授業・学習システムの提供：凸版印刷㈱、学校図書㈱、㈱LoiLo ほか

実施フィールドの提供：袋井市、袋井市教育委員会（袋井市立三川小学校）

(3) 内 容

三川小学校 5 年生（2 年目以降は 5、6 年生）約 40 人（2 年目以降が約 80 人）に一人一台タブレットパソコンを貸与し、新しいスタイルの授業を実践する。

ア 基礎・基本を効率的に学び、発展的な学習時間を生み出す学習プログラム

イ デジタル思考ツールを活用した思考を深める学習プログラム

ウ 学校と地元企業をつなぎ、本物に触れる教育プログラム

(4) 実施期間

3 カ年（平成 30～32 年度）

採択事業の契約は単年度毎、次年度以降は別途公募がある見込み

■ 目指す「未来の教室」（=未来の学び方）の姿

▽授業改善

これまでの授業

子供たちが何の問題もなく、問題が解けるようにするための指導的な教育。

教師主導の画一的授業

▽家庭学習

これまでの家庭学習

すべての子供たちに共通した宿題を与え、基礎学力の定着を図る反復学習が基本。

均一理解度を前提とした固定教材

これからの授業

子供たちが自ら如何に課題を見つけ、試行錯誤しながら課題が解決できるようにするための学びを重視した教育。

子供主体のアクティブで多様な授業

これからの家庭学習

子供一人ひとりが、自らの能力に応じて意欲的に学ぶことができる個別学習の実践が基本。

独りでも学べるレクチャー機能+個に応じたアダプティブ教材

公立校が利用可能な（教科書完全準拠）子供たちが 各々のペースで基礎基本を独習出来る学習サービスの開発

デジタル教科書 × やるKey

児童のペースに合わせたデジタルドリル(やるKey)で独習



【実証予定教科】 ■ 2018年度：小5算数(学校図書版)
■ 2019～2020年度：小5・6算数(学校図書版)

「思考ツール」を活用した学習プログラム（授業案） の創出により思考スキルの育成や向社会性の向上を目指す

※アドバイザー：関西大学 黒上 晴夫教授



（参考）「未来の教育」実証研究事業 [H30.6月補正]

③地方創生推進交付金 事業費 3,500 千円

(1) ねらい

本市では、これからの新しい時代を見据え、知識や技能を活用する力（課題解決力）のもととなる「考える力」を、市内すべての学校で共通したカリキュラムにより育てることを目指し、この取組を効率よく実施できる仕組みを構築するため、ICT 機器や学習支援ソフト等を活用した新たな学習モデルの実証検証を行う。

(2) 実施体制 平成 30 年 8 月 公募にて決定（予定）

(3) 内容

今井小学校 4 年生、約 40 人に一人一台タブレットパソコンを貸与し、一斉学習や協働学習を充実させるとともに、家庭学習の質を高める実証研究を行うことで、「考える力」を効果的に育む仕組みを構築する。

ア 個人のつまづきに応じた教材が提供できる学習支援ソフトの活用…家庭学習

イ 一人ひとりの考えを可視化する思考ツールソフトの活用…授業